

～意見交換の場面でもあらゆる角度から知事へ提言～



富澤副会長

◇人口減少問題について

一多くの高校生が進学の中で、県内の大学への進学者数は限られてしまう。県外に一度出ていく事は仕方がない。しかし就職段階で戻ってきてもらうためには群馬県の魅力を子ども達に伝えていく必要がある。

群馬県の雇用率は良いが、東毛を中心に工業系ということもあり、特に女性の文系の就職場所は少ないといった意見がある。全体的な受け皿を増やしていく事が必要である。

◇介護現場の労働環境について

一厚生省平成25年度介護労働実態調査結果では、労働条件の不安・不満が“賃金が低い”“有給休暇が取りにくい”“不払い残業がある”“休憩がとりにくい”“怪我の保障がない”など、私の出身組織が行った実態調査でもこのような結果がでている。結果、実際働いている職員が定着しない、離職を防ぐことは、人材不足が克服できないと認識している。労働条件問題は、労使自治で解決することが基本だが、残念ながら介護現場は労働組合の組織率が低く、国や県が実態を捉え、改善をしていくという施策が必要と考える。目配りを行い、将来的に医療介護の従事者の報われるようにしっかりとした、人材確保ができるように前向きに取り組んでいただきたい。



小島副会長

「連合群馬政策フォーラムを開催」 藻谷浩介氏の基調講演とシンポジウム

県への「政策・制度要求と提言」立案の段階で、政策フォーラムを開催し、基調講演として『里山資本主義に学ぶ 群馬の活性化』と題して、(株)日本総合研究所調査部の藻谷主席研究員より講演を受けました。

会場と一体となるよう質問方式で進められ、「殺人事件の件数は増えたか、減ったか」という事例をはじめ、人が抱くイメージや空気は事実と異なる、説得性ある正しい数値、データの見方の必要性など紹介されました。

本題では現役世代の減少、高齢者が増加している群馬県の世代別人口問題に触れ、いかに若者の流出をくい止め、受け入れるかが重要な課題であると述べた。また、「里山資本主義」的地域活性化に向け、安さ重視ではなく高品質の「地域ブランド商品」の販売やサービスの提供で外貨の獲得をねらうなど、今後の群馬県のめざすべき姿を示されました。

シンポジウムでは、「若者がなぜ群馬から流出してしまうか」をテーマにそれぞれから意見が出されました。

●学生の就職活動の動き、現状について

＜猪又 NPOスモール・ステップ理事長＞

群馬では地元での就職を希望する学生が多い一方、個人の成長がなく競争力に乏しく思っている学生がいる。東京での就職も視野に入れているという声もある。県外からの学生は群馬での就職を考えていない。

●若者の流出への対策について

＜あべ 群馬県議会議員＞

・群馬出身者を県内に完全に引き留めることは難しいため、県外からきた方に住みやすい場所であると思ってもらえるような取り組みが必要。

・4月から子ども未来局を創設し、安心して子育てと仕事の両立ができる「落ち着いて暮らせる群馬県」をめざし、環境整備に取り組んでいる。



働く者の生活を脅かす制度改革の動向把握と危機感を共有!

8月22日(土)「国政報告会ならびに政治意識・政治知識向上に向けた学習会」を開催し、130名が参加しました。

はじめに、宮崎岳志衆議院議員より国会での取り組みについて報告がなされました。

特に、働く者の生活を脅かす、①労働者派遣法改正案、②残業代ゼロ法案、③解雇の金銭解決について、「ニッポン総ブラック企業化3点セット」と強調し、それぞれの課題について説明をいただきました。

残業代ゼロ法案については、「年収1,075万円以上」の者が対象とされているが、当初案(2005年)では、「年収400万円以上」が対象とすることをもくろんでいた。「ここに向かって対象者を拡大するという圧力は必ずかかる」そのため、制度改革の阻止に向け、国に対し強く訴えました。

また、解雇の金銭解決では、不当解雇が横行する危険性を踏まえ、戦後の労働政策を根底から覆されるこ

とが語られました。

次に、経営労働評論家の奥井禮喜氏から「政局の動向と民主党に期待すること」と題し、講演をいただきました。

奥井氏は戦後70年談話や、現政権の強引な国会審議に触れ、「暴走している」と指摘。また、労働組合の仕事はご飯が食べられれば良いのか?労使対等とは、労(組合)の意見、使(会社)の意見、双方を吸い上げ、一歩進んだ論議を行う事を強調するとともに、問題は無関心であり、その脱却と、「健全な民主主義は、

国民一人ひとりが「NO」を言う事で権力者がひるむ事。そこに民主党の役割が求められている」と語られました。

国会での活動を報告する宮崎岳志衆議院議員

